

■創立130周年記念特集

《関西大学創立130周年記念式典・祝賀会を開催》

伝統への自信 未来への考動

—「学縁」を世界に広げよう—

関西大学は11月4日、これまで進めてきた創立130周年記念事業の集大成として、千里山キャンパスにおいて記念式典と祝賀会を挙行了。関西大学は、「正義を権力より護れ」を建学の精神とし、「学の実化」を学是に掲げて社会・市民の啓発と教育に取り組んできた。130周年を機に、新しい歴史の幕開けとして、これまで受け継がれてきた知と精神を確実に継承し、社会の要請に応える学園の創出に、一丸となって邁進することを宣言した。



当日、BIGホール100で開催された式典には、来賓・大学関係者約800人が出席し、創立130周年を盛大に祝った。

式典は、安部善博常務理事による開式の辞で開幕し、続いて学歌が斉唱された。池内啓三理事長は、130周年を迎えた謝意や決意を表するとともに、「今日は、未来永劫への厳粛な接点。肝心なのはこの130周年が、未来に向けた出発点となることです。予測困難な時代にあって、未来を問い、対話を重ね、答えを模索し、挑戦する。そんな姿こそ、我々が目指す将来像です」と、本学の更なる発展に向けて力強く宣言し、本学構成員が一丸となって、より輝ける「未来」を志向していくことを誓った。また、次なる20年である創立150周年に向けての行動指針「Kandai Vision 150」を発表。メインテーマ



では、「多様性の時代を、関西大学はいかに生き抜き、先導すべきか」を設定し、今後ますます本学を取り巻く環境が厳しくなるとの認識のもと、将来を見据え、よりスケールの大きなビジョンを描いた。

芝井敬司学長は、「創設から数えて130年の時を刻み、かくも立派な大学に成長することができました。そして、数々の困難を乗り越えて、創立者たちの熱さと名誉ある伝統を、今ここに受け継いでいることを、大いに誇りとするものであります。私たちは、関西大学の過去を受け継ぎ、それを未来の世代に受け渡していく責任を担う存在です」と、創設から今日までの本学の歩みを振り返るとともに、未来に向け勇気を持って進む意思を伝えた。

来賓紹介の後は、水落敏栄 文部科学副大臣、鎌田薫 一般社団



山本章弘氏



野村萬斎氏

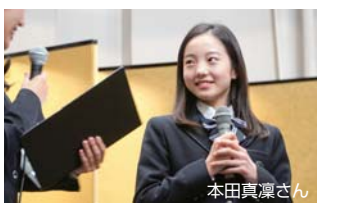


法人日本私立大学連盟会長、河田悌一 日本私立学校振興・共済事業団理事長らが祝辞を述べ、著名な校友等からのビデオ・メッセージの上映も行われた。さらに、特別公演として第一線で活躍中の能楽師・狂言方の野村萬斎氏による『三番叟』と、有形文化財である山本能楽堂を拠点としているシテ方の山本章弘氏(校友)による『高砂』が上演され、式典に華を添えた。

矢野秀利常務理事による閉会の辞をもって式典は終了。会場を100周年記念会館に移して行われた祝賀会では、応援団による演舞・演奏が披露されたほか、サプライズゲストとして、フィギュアスケーターの宮原知子さん(文1)と本田真凜さん(関西大学中等部3年生)も登場し、130周年という佳節を祝した。



宮原知子さん



本田真凜さん



● 関西大学創立130周年記念展示会 130年におよぶ伝統の軌跡を展覧



▲オープニング・セレモニーの様子

10月5日から11月14日まで、千里山キャンパスの関西大学博物館と大阪歴史博物館において、関西大学創立130周年記念展示会「関西大学のちから」を開催した。

第1会場の関西大学博物館では「関西大学のちから～伝統への自信 未来への考動～」をテーマに、「地から～大阪」「道から～伝統」「智から～叡智」「馳から～スポーツ」「千から～コレク

ション」の5つの「ちから」が象徴する本学所蔵の名品を紹介。

本学創立者ゆかりの品から130年の軌跡、近世・近代に大阪で活躍した大坂画壇の絵画、歴代アスリート達の栄光の記録、校友からの寄贈を含む博物館コレクションの数々が展示された。天六キャンパス体育館の部材を用いたウクレレや、体育会アイススケート部の宮原知子さん(文1)のメダルなどの名品に、来場者はじっくりと見入っていた。

また、第2会場の大阪歴史博物館では「関西大学蔵 本山コレクションの精華」をテーマに、大阪毎日新聞社元社長の本山彦一氏が蒐集した重要文化財や重要美術品を中心とする考古学資料を公開。学外での一挙展覧は初めてということもあり、貴重な品々を一目見ようと多くの人が訪れた。

- ちから 地** (大阪): 創作者 児島惟謙
- ちから 智** (重畳): 木村兼殿堂 (花蝶之図)
- ちから 千** (コレクション): タブアヌ仮面 (ミクロネシア)
- ちから 道** (伝説): 関西法律学校講義録
- ちから 馳** (スポーツ): バンクーバー五輪 フィギュアスケート銅メダル (高橋大輔氏所蔵)

■創立130周年記念特集

◎関西大学創立130周年記念事業

イノベーション創生センターが竣工 産学官連携を牽引する “ハブ大学”として

今年4月、社会連携部に産学官連携活動の新拠点として「イノベーション創生センター」を設けた。

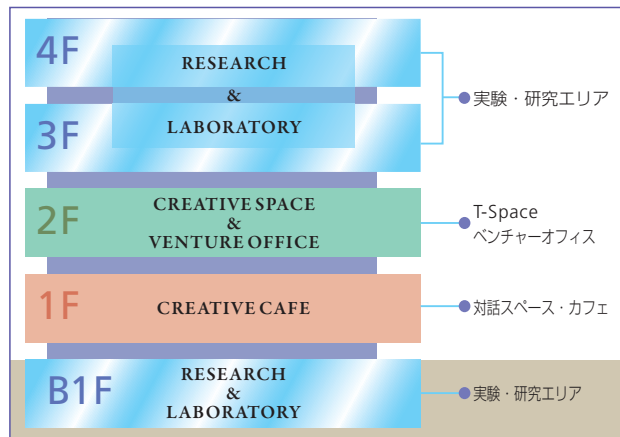
同センターの設置は創立130周年記念事業の大きな柱の一つであり、産学官連携活動の飛躍的な活性化とベンチャー支援・起業家育成を実践する。また、理工学系の先端研究に加え、マーケティング・リサーチ等の社会科学系の分野を配置することで、人文・社会・自然科学系の枠組みを超えた、教員・学生・企業・研究機関等との「協働」による本格的なイノベーションの創生を可能とする。

9月竣工の施設は、地上4階地下1階建て。1階の対話スペース・カフェは、自由な発想を生み出せる共有のリラックススペースであり、セミナーや交流会の場としての機能も備えているほか、研究成果の展示等も行える。2階のT-Spaceは、ビジネスモデルの構築・応用および学問領域・産学官の枠を超えた対話を行うスペース。また、起業支援のためのベンチャーオフィスは、大学発ベンチャーの拠点オフィスとして活用できる。地下1階、地上3・4階の実験・研究エリアは、企業との共同研究はもとより、オープンイノベーションを促進する「実験・研究スペース」として、産学官連携の新たな環境を形成する。

同センターの竣工により、50社を超える企業が研究に加わり、研究者・技術者との共同研究等がすでに進められている。関西大学は、創造的かつ革新的な研究成果を持続的に社会に発信する“ハブ大学”として、本センターをはじめ産学官連携に強い大学を具現化する。



イノベーション創生センター



2F: T-Space



1F: 対話スペース・カフェ

◎関西大学創立130周年記念事業

イノベーション創生センター竣工記念シンポジウムを開催 関西大学の技術と産官を連携し、イノベーションを生み出す

関西大学は、4月に設置した「イノベーション創生センター」の活動拠点施設を9月12日に竣工し、同月17日、竣工記念シンポジウムを千里山キャンパスにおいて開催した。テーマは「先端科学技術とイノベーション」。シンポジウムは2010年に「クロスカップリング技術」でノーベル化学賞を受賞した根岸英一氏への関西大学名誉博士称号贈呈式で幕を開けた。

シンポジウムの講演は、「Pursuit of My Dreams for Half-a-Century 大きな夢を持ち、それを追いつけよう」と題し、根岸氏により行われた。続いて、関西大学卒業生であり株式会社サムライインキュベート代表の榊原健太郎氏による話題提供をもとに、大阪大学名誉教授の宮原秀夫氏、パナソニック株式会社特別顧問の大坪文雄氏を交えたパネルディスカッションが行われ、学生や一般の来場者約700人は熱心に耳を傾けていた。



根岸英一氏へ関西大学名誉博士称号を贈呈



榊原健太郎氏



宮原秀夫氏



大坪文雄氏



竣工記念シンポジウム

第39回関西大学統一学園祭を開催

11月3日から6日の4日間、千里山キャンパスにおいて、2016年度の関西大学統一学園祭が開催された。今年のテーマは「RE130RN」。これは、関西大学が今年11月に創立130周年を迎えたことにちなんで、「生まれ変わり」という意味のREBORNの「BO」を「130」という数字に変えたもの。大きな節目を迎えた今こそ、新たな学園祭の歴史を作りたい！という、関大生たちの思いが込められた。

今年も多くのサークルやゼミによる研究発表をはじめ、模擬店、フリーマーケット、ステージ企画、講演会等、さまざまなイベントや催しでにぎわいを見せたほか、11月3日にはゴー☆ジャス、コマンダンテ、尼神インターによるお笑いライブ、5日にはSHISHAMOを迎えてライブを開演し、連日、会場は大いに盛り上がった。さらに、統一企画構成委員会が運営する毎年恒例の3大イベント「K.U.ROCK FEVER 14th」、「Kandai Dance FESTIVAL.2016」、お笑い王決定戦「LAUGH & PEACE」も行われ、観客を巻きこんでの熱いパフォーマンスが繰り広げられた。また、6日には俳優の小出恵介氏による講演会、夕方からは悠久の庭で「後夜祭」が開催され、ドラマチックなフィナーレを迎えた。

RE130RN



西日本最大級とされる学園祭。学園祭実行委員の学生約750人が運営

■創立130周年記念特集

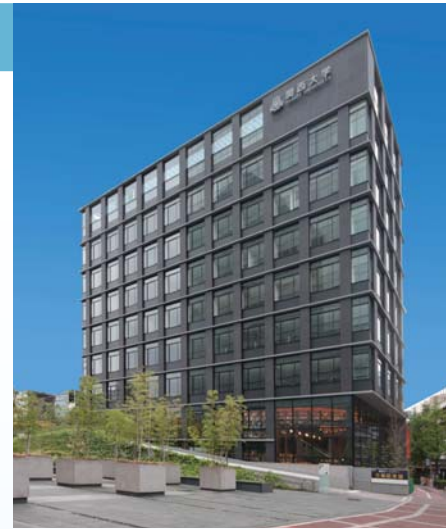
● 関西大学創立130周年記念事業 《梅田キャンパス開設》

地域・社会人・大学が共に発展できる新拠点 「KANDAI Me RISE」が発進

関西大学は、創立130周年を機に更なる飛躍を目指し、10月1日、大阪市北区鶴野町に「関西大学梅田キャンパス(愛称 KANDAI Me RISE)」を開設した。同キャンパスのコンセプトは、「人を導き、繋ぎ、自ら起こし、創る“人”を育成～“考動”を実践する場の創出～」。

関西大学関係者のみならず、多くの人が集い、にぎわう交流の場になることを目的とし、社会人向けの学び直し大学院プログラムや各種生涯学習講座をはじめ、起業支援や会員制の異業種交流サロンなど新しい事業を展開する。

また、館内には「キャリアセンター梅田オフィス」もオープン。関大生のキャリア・就職支援体制も一層強化され、最新キャリア情報が集積する就職・進路相談の場としての更なる活用に期待が寄せられる。



- ▼梅田キャンパス事業の3つの柱とキャリアセンター
- スタートアップ支援
 - <起業マインドを醸成し、多様な人材を育む>
 - ・常駐コーディネーターへの起業相談が毎日可能
 - ・同じ志を持つ仲間と出会う
 - ・専門家による無料セミナーを毎週受講できる
 - 会員制異業種交流サロン
 - <異業種交流を促し、イノベーションを創出>
 - ・サロン内の2000冊以上の図書が自由に利用できる
 - ・会員同士のネットワーク構築ができる
 - ・会員向けセミナー・交流会などに参加できる
 - ・会議室、自習用デスク、コピー機等の利用ができる
 - 社会人学び直し・生涯学習
 - <社会人を対象にさまざまな学びを提供。天六キャンパスの精神を継承する>
 - ・「社会人学び直し大学院プログラム」などを受講できる
 - ・受講者は休日に千里山キャンパス総合図書館で調査・研究ができる
 - ・異業種の方々と共に学び、交流できる
 - キャリアセンター 梅田オフィス
 - <関大生の就職活動を力強く支援>
 - ・就職活動の相談や参考図書の閲覧ができる
 - ・インターネットの利用や各種証明書発行など、多様なサービスが受けられる
 - ・企業研究会や採用説明会を開催
 - ・卒業生就業支援サービスを展開

▼梅田キャンパス フロアガイド

- TSUTAYA BOOK STORE
●スターバックス コーヒー
書店とカフェ機能を加えたBOOK & CAFEを設置。情報発信機能も有し、一般の方々にも広く利用いただけます。
- スタートアップ支援窓口「スタートアップカフェ」
●梅田キャンパスオフィス
起業家育成支援窓口として「スタートアップカフェ」を設置。スタートアップに関連する無料のセミナーやイベントを随時開催します。
- 会員制異業種交流サロン「KANDAI Me RISE 倶楽部」
ビジネスマンを対象とした会員制異業種交流サロンを設置。上質な空間で会員同士を繋ぎ、異業種間のネットワーク構築による新たな価値創造の場として展開します。
- 会員制異業種交流サロン「KANDAI Me RISE 倶楽部」
●多目的ルーム「KANDAI Me RISEラボ」
多目的のルームでは、セミナーやワークショップをはじめ、懇談会など交流イベントでの利用が可能です。
- キャリアセンター梅田オフィス
学生の就職活動支援を実践する場の提供とともに、立地を活かした卒業生就業支援事業も展開します。
- 各種教室・セミナールーム
「社会人学び直し大学院プログラム」における一部の講義エリアとしての利用に加え、中～少人数対象の生涯学習や起業支援等の関連セミナー実施での利用が可能です。
- 各種教室・セミナールーム/ホワイエ
生涯学習等実施のメインエリアです。休憩のためのホワイエも設置しており、各種情報発信の場としての機能もあります。
- 大ホール「KANDAI Me RISE ホール」
大人数を対象とした講演会など、生涯学習での利用ができます。ケータリング対応機能も持たせており、レセプション等の実施も可能です。

● 関西大学創立130周年記念事業

千里山キャンパスへの新たな玄関口
「新アクセス・エリア」が竣工



千里山キャンパスへの新たなアクセス・エリアが完成し、8月31日に竣工式が執り行われた。

関西大学創立130周年記念事業の一環として開設された新アクセス・エリアは、エスカレーターや憩いの広場、植樹による緑の空間をスマートに演出することで、学生や地域住民の方々の利便性と快適性を高め、人に優しいアプローチを創出。通学時の混雑緩和はもちろんのこと、同キャンパスは吹田市における災害時の一時避難地として指定されているため、有事の際の安全・安心な移動経路としての価値も併せ持っている。

野球専用グラウンド
「KAISERS BASEBALL FIELD」が完成



8月25日、千里山キャンパスにおいて、野球専用グラウンド「KAISERS BASEBALL FIELD」完成に伴う竣工式が挙行された。新グラウンドは、1970年から正課体育授業や課外活動等に使用されてきた千里山北グラウンドを改修し、野球専用グラウンドとしてリニューアルしたもので、内野に黒土、外野に人工芝を使用。

当日は、池内啓三理事長や楠見晴重前学長ら10人による始球式が行われ、マウンド付近から捕手目掛けて一斉に投げ込むという斬新な光景に、集まった野球部員達から拍手と歓声が沸き起こった。その後、内覧会と竣工式が執り行われ、関係者が本グラウンドの発展と繁栄を祈願した。